



保健師 最前線

相手を知るほど良くしてあげたい

伊根町

山本 南さん

平成 17 年に建てられたという伊根町保健センターは日あたりのよい開放的な空間になっており、住民にとって入りやすい雰囲気づくりが感じられる。国保伊根診療所に隣接しているため診察後に立ち寄る人も多い。

「先輩保健師には住民さんが直接訪ねて来て相談されることもあります。私もあのよう
に垣根のない関係を築けたらと思います。」

と話す山本さんは、伊根町に就職して 1 年目の保健師だ。これまで広島の中高一貫校で
養護教諭として働いていたが、京丹後市に住む両親の希望もあって地元に戻ってきた。現
在、山本さんが担当している業務は母子保健と介護予防事業だ。これまで中高生の子とも
と接していたといっても、やはり乳幼児となると勝手が違う。すべての業務に精通してい
るベテラン保健師に一から教えてもらっている。

小規模保険者のため、町全体が顔見知りなのだろうと思っていたが、集落が点在してい
るので地域が違っていると交流が少ないそうだ。日本海沿いの有名な舟屋がある地区の他にも、
山間部の集落があり、住んでいる地域による気性の違いを感じることもある。

「山間部の方が人口減少が激しくて住むのも大変なんです、その分住民さん同士のつ
ながりが強くて教室への参加も熱心なように思います。」

最近、介護予防事業の一環で行っていた、「すこやか運動教室」と「お口と栄養の教室」
が終了した。「お口と栄養の教室」は歯科衛生士や栄養士による、ブラッシングや減塩料理
についての講習だったが、参加者たちから口の状態が改善した、実際に家で料理を作っ
てみたよ、といった声をかけられた。地域の違う参加者同士のきずなが深まる場にもなった。

「本人たちがお互いに高め合っていていい結果を得られたということが、すごくうれし
い。今後はより良い教室にするために工夫していきたいと思います。」

教室や健（検）診受診勧奨の訪問を通じて、住民の悩みや家族のこと等を知れば知るほ
ど、もっと良くしてあげたいという思いを強くした山本さん。先輩保健師のように相手の
背景を知ったうえで深いアセスメントができる、頼られる存在になりたいと思っている。
まだまだ住民さんの顔を覚えるのも苦戦していますと言うが、以前の職場では中高生約
1200 人の顔と名前を把握していた。きっと大丈夫。